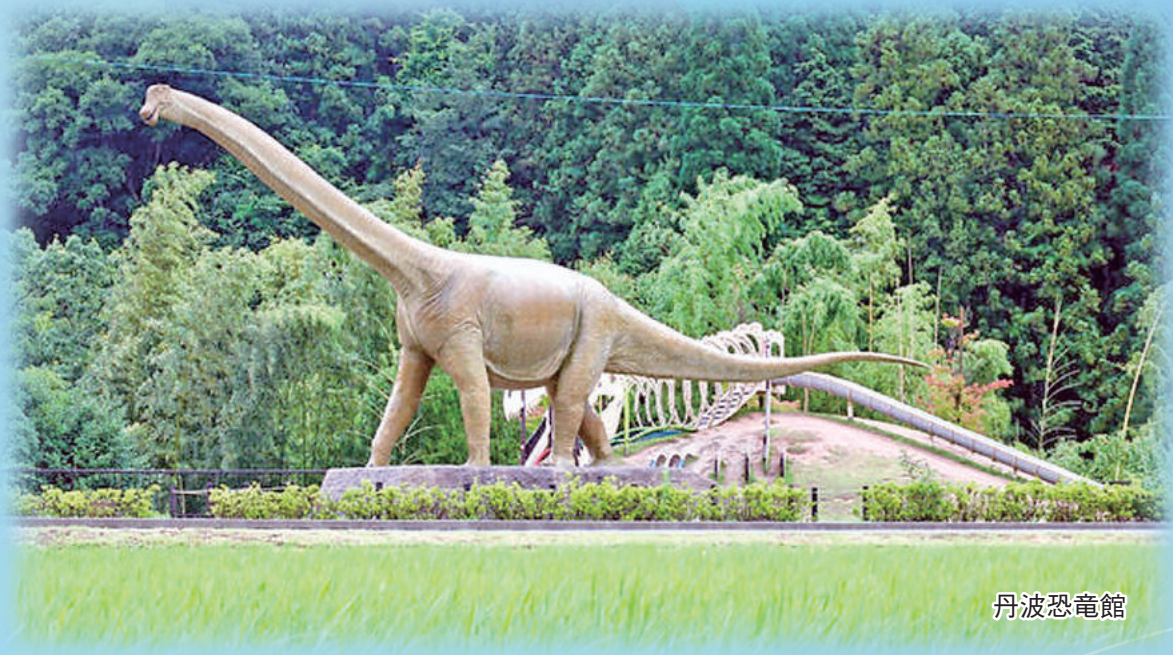


かきけはし

2021
NO. 110

Contents

特集 ICT機器を活用したこれからの取組み	2-3
研修会報告	4
ブロック通信、部会・委員会通信	5
会員紹介	6-7
事務局からのお知らせ	8



丹波恐竜館



山陰海岸ジオパーク

特集

「ICT機器等を活用した

これからの取組み」

編集委員 森 理恵氏

厚生労働省は、介護人材の確保・介護現場の革新のなかでもテクノロジの活用や人員・運営基準の緩和を通じた業務効率化・業務負担の軽減につながるよう促進している。

介護現場においては、介護ロボット導入支援事業補助金や介護保険施設における業務効率化支援事業など様々な補助金事業が創設されたことによりICT化に取り組み施設も増加している。

今回は、先駆的また積極的にインカム等ICT機器を導入し日々の業務に活用している特別養護老人ホームあさがおホールと、補助金事業を活用しながら職員の意識改革や業務改善に取り組んでいるにしのみや聖徳園、いまづ聖徳園を取材した。

特別養護老人ホーム

あさがおホール

社会福祉法人ひまわりの特別養護老人ホームあさがおホール。岩田 優子理事長は、介護業界に根強く残る職員の正義感頼みの旧態依然とした体制では事業の継続性は図れない、また医療と介護は同等の立場であるべきという信念のもと、様々な企業とのフィールド

ワークの実践に積極的に取り組み、新たな機器のデモンストレーションを行い、常にチャレンジする職場風土を醸成してきたと話す。

現在は、早い段階から導入した介護記録用のタブレット、それに加えインカムや眠りスキャンに離床CAATCHセンサー、館内ネットワークカメラを設置するなど複数機器を導入しているが、これも介護環境への投資もケアの底上げや質の向上の一環だと話す。

インカムは、就労中には端末機を腰ベルトに装着、ヘッドセットを着けるとハンズフリーとなり複数職員双方向の一斉通信が行なうことができる。また、ナースコールと眠りスキャンにも互換性を持たせることで、即座にコール対応することができる。業務する全



インカム

職員がインカムを装着することで、利用者様の動きが把握でき、誰が対応するか、できない

のかが判断できるため、相談員やケアマネジャーを含め誰でもがタイムリーにコール対応することができる。

このことは、利用者ニーズへの迅速な対応、職員同士のチームワークと協力体制を構築することにつながった。

一方で、インカムは全職員が感知するため、瞬時に職員の所在を確認ができることに加え職員同士のコミュニケーションにもなっている他、言葉遣いが丁寧になり利用者様への接遇の向上にも繋がった。

また、複数設置されているネットワークカメラ映像は、職員詰所にあるモニターに館内が限なく映し出され、職員や利用者の安全を見守ることができ

る。他にもタブレットを使用した介護記録、職員間の一斉メールや勤怠管理システムなど導入機器は多岐に渡る。今後の展望はと質問をしたところ、契約書や重要事項説明書など書類のペーパーレス化の促進やチャットにも取り組むみたいと更なる業務の効率について聞くことができた。



眠りスキャン

特別養護老人ホームにしのみや聖徳園では、電動ベッドの入れ替えと同時に眠りスキャンを数台導入、翌年には介護請求システムと連動した介護記録用タブレットを導入、介護記録のペーパーレス化を図った。現在では蓄積された食事量や水分量のデータを分析し、利用者様の健康管理を行なう上で効果的に活用されている。

また、昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策にかかる補助金を活用し、ナースコールシステムをPHSからインカムへと切り替えた。現場からの不安の声を受けPHSも一部残したと榎原一仁施設長の職員への配慮が垣間見えた。

インカム導入後、施設内で新型コロナウイルス感染発症者があり、入院ができず施設で介護した際には、異なったゾーンに居る職員間のコミュニケーションツールとして有効な通信手段であった。むしろインカムが無ければ、対応できなかったのではないかと当時を振り返っていた。

いまづ聖徳園は、令和元年に眠りスキャンを1台導入し看取り介護で使用、翌年の補助金を活用し、全床に眠りスキャンを配置したことで夜間帯の巡視の負担軽減につながった。施設長兼チーフ看護師である大垣智子氏は、当施設は十分な職員を配置し

社会福祉法人聖徳園
特別養護老人ホームにしのみや聖徳園
地域密着型特別養護老人ホームいまづ聖徳園

医療依存度の高い方の受け入れを行ない、より質の高いケアの提供を目指している。

眠りスキューンは、マットレスの下に設置したセンサーで臥床している人の心拍や呼吸数を測定、睡眠状態を確認することができ、起き上がりや離床、在床を把握することができる。その情報は、パソコン画面に表示されるため睡眠状況が明確にわかり、覚醒時に排泄の声掛けができる。また起床時の声掛けのタイミングも合わせられるため、利用者様も職員もムダな動きが軽減するという相乗効果が得られる。

また、可視化できるデータの利便性に加え、蓄積したデータの活用方法など新たな課題も出てきた。現在でもメーカーとの勉強会を重ね、新たな知識や技術を習得し、データ分析を行ないエビデンスに基づいた課題解決へと導けることが、現場職員の達成感と意識の向上へとつながっている。更なる効果として、個々の睡眠状態に合わせた介護を行なうことで、不眠を訴える方の眠剤の内服が減少し、食事が量が増え体調が整うなどの効果につながった。

両施設ともに導入効果が大きかった機器として、ピュアット（ウルトラフラインバブル発生装置）を挙げる。据え置き型の小型機器がウルトラフラインバブルを発生させる。特殊浴槽に張ったお湯にホースを浸け利用者様に入浴していただくと、小さな気泡が皮膚の汚れや拘縮部分の細部の汚れを落とす。これまでのように石鹸での洗体

が必要になるうえ、入浴時間が短縮され介護職員の負担軽減と感染予防対策にも有効であったと導入効果について聞くことができた。



取材レポート

今般、新型コロナウイルス感染症拡大などが、介護現場を取り巻く環境に大きな変化をもたらした。感染拡大を防止するためには非接触での見守りや観察、介護など課題が浮き彫りとなったが、結果としてこれらのことがこれまでの常識を変革する追い風にもなった。

最後にICT化に必要なものは、職員の意識付けとインフラ整備、ICT技術の活用、蓄積したデータの活用そしてエビデンスに基づくケアの実践までを紐づけ、自立支援を目的とした利用者様の個別ニーズに対応できるより良い介護を実現するためのツールとして有効活用するべきではないか。

ぜひ、次年度以降もICT化また生産性向上に向け、助成金事業が効果的に活用され、新たな介護の展開と進化に期待を寄せたい。

兵庫県令和3年度 介護ロボットの導入支援【介護業務における労働環境改善支援事業】

地域医療介護総合確保基金を活用し、介護保険施設等に対する介護ロボットの導入支援を実施

	令和元年度	令和2年度 (当初予算)	令和2年度 (補正予算)	令和3年度
介護ロボット導入補助額 (1機器あたり)	上限30万円	同左	○移乗介助 ○入浴支援 上限100万円 上記以外 上限30万円	同左
見守りセンサーの導入に伴う通信環境整備 (Wi-Fi工事、インカム) (1事業所あたり)	—	拡充 上限150万円	拡充 上限750万円 ※ 介護保険施設のみ	同左 ※見守り機器等の情報を介護記録にシステム連動させる経費を対象に追加
補助上限台数 (1事業所あたり)	<入所・居住系> 利用定員の1割 <在宅系> 利用定員の0.5割	拡充 <入所・居住系> 利用定員の2割 <在宅系> 利用定員の0.5割	必要台数 (制限の撤廃)	同左
事業主負担	対象経費の1/2	同左	同左	対象経費の1/2 又は3/4 (※) ※一定要件を満たす場合のみ

介護ロボットとは

- ロボットの定義とは、
 - 情報を感知（センサー系）
 - 判断し（知能・制御系）
 - 動作する（駆動系）
 この3つの要素技術を有する知能化した機械システム
- ロボット技術が応用され利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器を介護ロボットと呼ぶ

対象となる介護ロボット

移乗介助、見守り、入浴支援などで利用する介護ロボットが対象



厚生労働省資料より兵庫県作成

安全対策体制加算対応

安全対策担当者研修会

日時：7月30日開催

開催場所：兵庫県老人福祉事業協会・WEB研修

今回の研修会は、びわこ学院大学 学部長 福祉リスキーマネジメント研究所所長 鳥野猛氏を招いて、『高齢者施設における安全対策担当者研修—令和3年度からの改定の視点と、安全対策担当者に求められる役割』の講義をwebで行われた。

令和3年度の介護保険制度改正の

ポイントとして、従来の運営基準（省令）に安全対策担当者の設置が加わったこと、市町村への事故報告書の書式が統一化されたこと、加算・減算の新設として、△安全対策体制加算▽20単位（入所時に1回）…外部の研修を受けた担当者が配置され、施設内に安全対策部門を設置し、組織的に安全対策を実施する体制が整備されている場合に算定可、△安全管理体制未実施減算▽5単位/日（※6ヶ月の経過措置期間を設ける）…運営基準における事故の発生又は再発を防止するための措置が講じられていない場合に減算、が挙げられ、介護保険施設における事故発生の防止と発生時の適切な対応の推進が求められている。

講師の方より「事故を無くすのは不可能、防止する努力と、その対応

が大事」とのコメントがあり、事故を防止するための対応と事故発生時の初動対応について施設内で統一していくこと、事故発生時にすぐ対応できるよう、対応マニュアルの周知のみならず、コミュニケーションを継続的に行うことが重要であることを再認識した。

また、記録の仕方についてのポイント（西暦で統一、24時間表記、発生日時≠発見日時ではない）の説明や裁判になった場合は最終判決が出るまで約6〜7年と長期間かかるとの説明があったことから、記録に客観性を持って正確に書くことの大切さ、職員個々によって記録の仕方が別々にならないよう標準化・統一化の重要性を感じた。



編集委員 湯本 健作

令和3年度職員研修会

「認知症と共に生きる」

日時：8月27日

場所：WEB研修

講師の丹野智文氏は、トヨタの営業の仕事をしてきた39才の時、若年性アルツハイマー病と診断され、その時アルツハイマーⅡ終わりと思ったと云う。投薬治療の為に入院。退院後、社長が「なんでも仕事があるから戻ってきなさい」と言ってくれ、とても嬉しかった。それで、出来る事、出来ない事、やりたい事をキチンと伝えるようにして、皆に聞きながら仕事を続けていけるようになった。病気をオープンにすることで、サポートしてもらえ。偏見は自分や家族の心の中にあるのだと気づいた。会社の同僚達も、自身が病気になるっても働き続けることができるとのだと安心するようになった。現在47才の氏は、トヨタ所属のまま、認知症の活動が主になっておられる。以下は、自身の体験からのご意見。

認知症を介護の問題と捉え過ぎではないかと思う。支援者は認知症の本人でなく、先ず家族に挨拶し、名刺・パンフを渡す。そして家族に困っていることについて聞く。これでは本人は居心地悪く、居た堪れない気持ちになる。認知症にも色々な夕

イプや段階があるのだから、先回りして守られることで機能低下を招いてしまう危険もある。病名から人を見るのではなく、目の前の人を見て欲しい。普通の会話、言葉のキャッチボールが大切。本人にやりたい事を聞けば困りごとも分かる。多くの場合、失敗してしまいが、工夫して挑戦していくことが大切。最後は成功体験で終わらせて欲しい。又、認知症当事者が当事者の相談に乗ることも実施していて、免許返納もデイに行くことも、相談して自分で決めたことは実行する、との事だった。

最後に、自分は目の前の不安を持った人をサポートし、笑顔にしたいと願っているだけなのだが、それが家族も楽になり、回りまわって社会が変わっていくことに繋がるのかな、と思うと締め括られた。



編集委員 大澤 智子

ブロック通信

◆阪神ブロック

- 10月8日
第2回施設長会及び研修会（オンライン開催）
『Zoomを含むオンラインやWEB会議や研修方法について』
講師：芦屋市ハートフル居宅介護支援事業所
主任介護支援専門員 神田 信治氏

◆東播磨ブロック

- 7月15日 出席者72名
「入浴介助のプロフェッショナルになろう！」（オンライン開催）
講師：理学療法士 松本 健史氏
- 9月30日 出席者58名
「認知症高齢者の食事支援について」（オンライン開催）
講師：大阪大学 顎口腔機能治療部 歯科医師 野原 幹司氏
- 10月14日 出席者72名
「認知症ケアを見直そう～コロナ禍でのケアを考える～」（オンライン開催）
講師：医療法人財団 百葉の会 人材開発室部長 高口 光子氏
- 11月19日
「ノーリフティングの取り組みと実践」（オンライン開催）
講師：一般社団法人ナチュラルハートフルネットワーク
下元 佳子氏
- 12月8日
「ケアプラン研修会」（オンライン開催）
講師：ケアプランリーダー派遣委員会委員長 藤原 重樹氏
- 令和4年1月18日 予定
「VR認知症体験会」小野市うるおい交流館エクラにて 詳細未定

◆姫路ブロック

- 7月21日「高齢者福祉施設における新型コロナウイルス感染対策」
講師：姫路市保健所 織田真人氏
- 8月17日「高齢者施設安全対策担当者研修」
講師：びわこ学院大学教授 烏野 猛氏

- 9月14日「施設ケアマネジメント研修」
講師：社会福祉法人関寿会 統括管理者 中野 穰氏
- 11月9日「社会福祉施設の災害対策研修」
講師：兵庫県防災士会 顧問 寺岡 芳孝氏

◆西播磨ブロック

- 9月7日 職員研修「認知症介護（基礎研修）」
主催：神戸リハビリテーション福祉専門学校 参加者：40名

◆但馬ブロック

- 12月9日「高齢者虐待の防止と身体拘束の廃止」（オンライン開催）
講師：一般社団法人 支援の思想研究会理事長 上田 晴男氏
- 12月10日「令和3年度介護報酬改定後の動向について」（オンライン開催）
講師：経営開発センター 代表取締役社長 野崎 悦雄氏

◆丹波ブロック

- 11月17日
特養部会研修会（オンライン開催）
「社会福祉施設・事業所のBCPを理解する」
講師：佛教大学専門職キャリアサポートセンター 後藤 至功氏

◆淡路ブロック

- 8月25日 行政連絡会議
- 10月15日 ケアプラン研修会
- 11月26日 給食関係職員研修会（リモート研修）
講義「高齢者のサルコペニア、フレイル、コモビディティと、栄養の役割を考える」
講師：ちゅうざん病院副院長・金城大学客員教授 吉田 貞夫氏
- 12月 看護、介護職員研修会

部会・委員会通信

◎ 介護保険推進委員会

介護報酬改定の影響調査を実施・分析したものをホームページに掲載しております。又本調査に基づき厚生労働省と意見交換を行う予定です。（詳細は、後日発行のかけし号外に掲載予定）

◎ 介護人材確保推進委員会

新型コロナの感染拡大により、例年実施の事業で縮小や中止となっておりますが、将来の介護人材の確保を目指し、介護の仕事の魅力を伝える「出前授業」はコロナ禍の中、中学校、高等学校からの依頼に応じて実施しております。就職出前プレゼンテーションも養成校4校で実施しました。各会員事業所の現在の人材確保の手段の一つになれるよう、本会HPの「ひょうご介護求人ネット」では、各会員事業所の求人情報入力を促進しているところです。そして、県内中学校1年生へ「楽々介護」、県内高校1年生へは「わたしを叶える。」を配布しました。

◎ 調査研究委員会

令和3年度は「感染症対策及びBCPの取り組み状況」について調査しており、モデル施設として、自然災害の種類・施設規模及び種類・各ブロック等また、研修会の開催状況、マニュアル、体制の有無、取り組み状況等を勘案して10施設を選出し、来年6月をめぐりに感染症及び自然災害のBCPを作成し、会員施設に公表する予定です。

◎ 編集委員会

会員施設の新たな取り組み等の情報をお寄せください。特集記事のテーマも募集します。かけし111号発行は令和4年3月を予定しています。

◎ ケアプラン委員会

10月28日、11月11日にケアプラン基礎研修会を開催しました。

◎ 研修委員会

新型コロナ感染拡大予防の為、Zoom研修を開催しました。7月20日人生の最終段階における対応向上研修、7月30日には安全対策加算対象の安全対策担当者研修、8月27日職員研修会を実施し、開催後HPにアップし視聴できるようにしました。令和4年1月26～27日施設長研修会を開催します。介護支援専門員実務研修受講試験対策助成事業では、Web配信教材や統一模擬試験（在宅受験）の費用負担支援をしました。

◎ 養護部会

12月13日職員研修会、2月10日施設長研修会を計画しておりますので、ご参加をお待ちしております。

◎ 軽費・ケアハウス部会

令和4年1月18日軽費・ケアハウス部会施設長研修会を開催します。弁護士法人かなめ代表 畑山浩俊氏をお迎えし、『新型コロナ対応とBCPについて ～BCP発動時における絶対に抑えておくべき法的ポイント 徹底解説講座！～』をテーマに講演いただきます。是非ご参加ください。

◎ デイ部会

10月21日に『精神疾患と認知症について』をテーマにかきぎ認知症しあわせクリニック院長 柿木達也氏を招いて研修会を開催しました。

◎ 地域サポート施設推進事業

令和4年1月に、認定施設による事例発表会と令和4年度認定施設募集要項説明会を予定しております。

会員紹介

社会福祉法人テンダー会は平成12年に発足いたしました。翌年には特別養護老人ホームらくらく苑が開設され平成20年には北之庄らくらく苑という別棟が開設されました。尼崎市の北部に位置し緑豊かな田園風景に囲まれた環境の中、利用者にとってその人らしい暮らしを施設に入居されてからも継続できる生活の場として前述の施設は従来型の多床室型、後述は全室個室のユニット型のそれぞれの特性を活かした介護を提供させていただきます。その上で、ご利用者様の歩んできた人生に本人様と家族の思いを汲み取り訴えに耳を傾け心の声を聴く最期まで寄り添うケアを提供しています。また、介護度や認知症の重さでグループ分けをせずにお互い寄り添い協力



しあう、そういった人と人の繋がりが大切にした生活の場を提供していきたいと考えています。

特別養護老人ホームらくらく苑

介護老人福祉施設 / 阪神ブロック



社会福祉法人 テンダー会 特別養護老人ホームらくらく苑

施設長名 粟生 智哉 定員数 入所105名

住所 〒661-0951 尼崎市田能4丁目2-50
TEL 06-6494-1248 FAX 06-6494-1266
tenderkai@space.ocn.ne.jp

併設事業 短期入所生活介護、通所介護、訪問介護、居宅介護支援、ケアハウス

通所介護施設 清華苑らんらん

通所介護 / 東播磨ブロック



社会福祉法人 三幸福社会 通所介護施設 清華苑らんらん

施設長名 池田 昌弘 定員数 定員6名

住所 〒674-0064 明石市大久保町江井島1648-5
TEL 078-937-8470 FAX 078-937-8472
ghseikaen@seikaen.jp

併設事業 居宅介護支援事業所、認知症対応型共同生活介護

清華苑らんらんは、認知症対応型デイサービスとして平成11年に開設しました。現在は、グループホーム清華苑内において共用型サービスとして運営をしています。グループホーム清華苑の入居者と同じ空間で馴染みの関係を築きながら、家庭的な雰囲気の中で過ごしていただいています。

日常的な活動が多く、生活リハビリとして、お食事の準備や盛り付け、食後の洗い物といった活動を通して、心身機能の維持や改善を促進していきます。

また、屋上階にある庭園を利用して季節の花や野菜などを育てています。園芸を通じて、土いじりの楽しさや香り、芽吹いたばかりの緑など、美しいもの、自然なものに触れ、五感が刺激され心の癒しも得られて



います。少人数ということもあり、ひとりの認識や感情に向き合いながら、専門的な個別ケアを提供していきます。

関宮通所介護事業所

通所介護／但馬ブロック



社会福祉法人 養父市社会福祉協議会 関宮通所介護事業所

施設長名 雲田 千春 定員数 定員24名

住所 〒667-1105 養父市関宮193
TEL 079-667-3248 FAX 079-667-3351
c-kumoda@yabu-shakyo.jp

養父市社会福祉協議会関宮通所介護事業所は、山や田んぼなど自然に囲まれた静かな地域にあります。

社協運営のデイサービスとして福祉目標である『だれもがつながりささえあういのち輝くまちづくり』のもと、その利用者らしい暮らしが支えられるよう支援を目指しています。季節を感じてもらえるよう季節ごとに行事を考え、集団でのレクリエーションや、個々に合ったプログラムで機能訓練を行っています。また利用者様の中には野菜や花を作っている方も多く、ご指導を受けながら一緒に野菜作りを行っています。コロナ禍の影響でボランティアなど地域の方々との交流ができない中、オンラインでの交流事業も積極的に行っています。



これからも利用される方が住み慣れた地域でいつまでも安心して生活できるように心身機能の向上を図り、地域の方々と協力し合い支援ができるように努めてまいります。

特別養護老人ホームこすもす倶楽部

介護老人福祉施設／西播磨ブロック



社会福祉法人 あいおい福祉会 特別養護老人ホームこすもす倶楽部

施設長名 中嶋 恵子 定員数 入所70名

住所 〒678-0044 相生市野瀬1356番地
TEL 0791-24-0600 FAX 0791-24-0900
aioifukushikai@cosmos2000.com

併設事業 短期入所生活介護、通所介護、
認知症対応型共同生活介護、訪問介護、
居宅介護支援事業所

特別養護老人ホームこすもす倶楽部は、平成16年、海の見える自然豊かな相生市野瀬に開設されました。平成11年に法人を設立し、デイサービスや訪問介護を中心に、地域の高齢者福祉に携わってきました。地域に新しい入居型施設をという声に応え、北欧視察を行い、プライバシーと個人の尊厳を大切にしたい、全室個室のユニット型特養をオープンしました。ホテルのような雰囲気を感じていただけるように、商業デザイナーにも協力いただき、落ち着いた空間で、安心・安全な日常の提供を目指しています。



居者様、地域の皆様の、安心・安全に役立てるよう、職員と共に邁進してまいります。新型コロナウイルスの影響により、大変な時期ではありますが、皆様ご自愛ください。

事務局からのお知らせ

令和3年度就職出前プレゼンテーション実施報告

急速な高齢化に伴い充実したサービス提供にむけて福祉・介護の現場では一層のマンパワーの確保が急務の課題となっています。

兵庫県老人福祉事業協会では、兵庫県より委託を受け、「介護業務イメージアップ推進事業」を展開しており、その事業の大きな柱に「就職出前プレゼンテーション」があります。平成28年度より、それ以前に実施していた集合型就職フェアから、出前型の就職出前プレゼンテーションに舵を切り、学生が来るのを待つという受身の姿勢ではなく、学生が在籍している学校に、私たちが出かけてプレゼンを行う方式で実施しています。

例年非常に多くの事業所からの申込があり、抽選を行い、今年度は、6月29日(火)大原保育スポーツ医療専門学校、7月2日(金)兵庫県立総合衛生学院、7月14日(水)神戸リハビリテーション福祉専門学校、7月27日(火)姫路ハーベスト医療福祉専門学校の計4校で実施しました。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症への感染防止に細心の注意をし、参画事業所の職員さんの参加人数も制限し、マスクとフェイスシールドの着用を必須としながらの実施となりました。プレゼンテーションでは「自法人の魅力や仕事のやりがい」を熱く語りました。

また、兵庫県立総合衛生学院と姫路ハーベスト医療福祉専門学校では、プレゼンテーションの後に、各事業所のブースを設け、学生が順に事業所を回り個別に質問や説明を受ける時間も設けました。

参加している学生からは、「介護職員さんの生の声が聴けて良かった。」「具体的な勤務条件等を知ることができて就職活動の役に立つ。」「卒業生の活躍が励みになる。」「いろいろな施設に見学に行ってみたい。」などの感想が寄せられています。

介護職等の人材確保は大変厳しい現実がありますが、この就職出前プレゼンテーションの参画事業所には参加した学生の入職へとつながっています。



大原保育スポーツ医療専門学校(6月29日実施)



兵庫県立総合衛生学院(7月2日実施)



神戸リハビリテーション福祉専門学校(7月14日実施)



姫路ハーベスト医療福祉専門学校(7月27日実施)



◆ 青年部会 会員募集中 ◆

【入会条件】

正会員 50歳以下の施設長もしくは施設長の推薦する50歳以下の施設職員
 年会費：5,000円

賛助会員 会の趣旨に賛同し、ご支援いただける方
 年会費：10,000円

【目的】

老人福祉の増進と老人福祉事業推進のために、老人福祉事業後継者としての研鑽と会員相互の親睦をはかることを目的とする。

入会お待ちしております！
入会についてのお問い合わせ、並びに申込書送付は下記、青年部会事務局まで。

【青年部会事務局】特別養護老人ホームたちばな苑 山岡 TEL (0799)27-0146

県老協加入施設数 R3.11.24現在

	特養	養護	軽費	ケアハウス	デイサービス	計	
会 員	阪神	66	6	0	21	71	164
	東播磨	63	6	1	20	73	163
	姫路	42	3	0	8	40	93
	西播磨	28	5	0	2	36	71
	但馬	25	3	0	6	40	74
	丹波	11	4	0	3	13	31
	淡路	21	4	0	2	16	43
	計	256	31	1	62	289	639

※ 賛助会員 1事業所(内訳：団体)

編集後記

ワクチンの3回目のブースター接種や新型コロナへの抗体カクテル療法と期待する経口薬の使用も間近になり、ウイズコロナの生活様式が少しずつ始まっていますが、高齢者福祉施設にとっては、感染防止への努力は今後も続けていかなければなりません。来年も引き続き、会員事業所の皆様とともに事務局も一丸となって、迅速な情報収集や情報提供により、感染防止対策や非常事態に対応できるよう努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。